

令和4年度（2022年度）第1回専門高校NEXT人材育成協議会 協議まとめ

【信濃委員】

○岩見沢農業へ

- ・もみがらを燃焼した後の利用について、ビニールハウスの中への散布や他の農業高校の圃場での利用も考えられる。
- ・コストパフォーマンスの視点が入れていることは重要である。また、炭素の収支について、実際にどのようなプラス、マイナスがあるかの観点を入れ込んでおく必要がある。簡単に答えは出ないと思うが、そのような視点からのアプローチが必要である。

○札幌工業へ

- ・ビニールハウスの管理機器の使用法について、農家の方が声によって操作ができることは、とてもよい取組である。進められているビニールハウスのICT化については、管理機器を導入しても使用されなければ意味がないので、なるべく操作法のハードルを下げる必要がある。
- ・クラウドベースで作業するのはよいが、停電が起きたときの技術的な対応をどうするか、初期の段階から考えておくとうい。

【岩見沢農業生徒】

- ・炭素のことについては初めて聞いたので、これから勉強していきたい。

【小島委員】

○岩見沢農業へ

- ・札幌工業との連携が鍵になるので、連携を密に取りながら実施する必要がある。
- ・バイオブリケットストーブ、地中熱、発酵熱については、大いに期待されるところであり、費用対効果を考えながら進めてほしい。
- ・地域への発信や農家の方々と共に考えることは、とてもよい取組である。是非、頑張ってもらいたい。

○札幌工業へ

- ・今年度からは、本当の意味でのコラボレーションが始まるので、しっかりと進めてほしい。
- ・ビニールハウスの管理機器をAIの声で操作することができたら、本当に素晴らしいことであり、スマートフォンで遠隔操作ができているなら、既に完成度としては高い段階である。
- ・地域の活性化、環境保全について、面白く聞くことができた。公共的な立場が大事であるため、地域の声を十分に聞きながら、研究結果をどういった形で生かせるか、施工後も住民の方と対話をしながら、成果や課題がどこにあるのかを探してほしい。
- ・高大接続という視点で、よい取組になるよう進めてほしい。

【岩見沢農業生徒】

- ・地域への普及活動は、先生方とも打合せをしながら、農家の方々の話を聞いて進めていきたい。

【札幌工業生徒】

- ・ビニールハウスの管理機器について、AIによる操作の研究を現在進めている。

【百瀬委員】

○両校へ

- ・産業界でも脱炭素が課題となっており、コラボレーションチャレンジについては、環境面なども含め、基礎的な実験が進められることを期待している。生産性や収益力の向上、北海道としての経済力の向上につながればと思う。
- ・大学や地域等の知見を遠慮なく聞いてもらい、本プロジェクトを進めてほしい。

○札幌工業へ

- ・プラットフォームとは、どのようなものをいうのか。

【札幌工業教員】

- ・プラットフォームとは、研究指定終了後も本研究が継続できるような体制を想定している。

【築城委員】

○両校へ

- ・実施計画書には、話合いの機会をより多く設けた方がよいとの記載があったが、Google Workspaceはどのように活用するものなのか。また、それ以外の交流の方法があれば教えてほしい。

【札幌工業教員】

- ・現在、校内では生徒一人一台端末となっており、Google Classroomで両校の生徒と先生が参加したグループを作成することで、リアルタイムでの会議の開催や授業が同一の時間に行われている時に交流するなど、研究指定の終了後も、研究が継続できるような体制を構築したい。

【飯田委員】

○岩見沢農業へ

- ・コロナ禍の中、大変よく取り組まれている。課題が明確になり、方策が示され、3年目で成果が出るのを楽しみにしている。
- ・地域への成果の普及を重点に行うという視点は大変素晴らしい。

○札幌工業へ

- ・課題が明確であり、3年目でステップアップしていくことがよく分かった。
- ・AIやIoTなどの活用は、これからの時代に活用不可欠な技術であり、高校生も勉強してほしい。

【竹中委員】

○札幌工業へ

- ・ AIによる音声操作によって、農家の方が簡単にビニールハウスの管理機器を操作できるようにすることは、とても興味がある。

【和泉委員】

○両校へ

- ・ 丁寧で分かりやすい説明であり、周りの人を含めて一緒に行動していることがよい。
- ・ 北海道農政部技術普及課のWebページでは、スマート農業の動画を公開しているので、参考にしてほしい。

○岩見沢農業へ

- ・ 国では、みどりの食料システム戦略、道ではゼロカーボン政策を掲げており、コストを重視していることや、環境への配慮をしているのがよい。

○札幌工業へ

- ・ トラブルが起きたとき、具体的には、故障や誤作動への対応をどうするかを継続して考えてほしい。

【茶谷委員】

○両校へ

- ・ これまでの成果を踏まえて、しっかりと計画されている。
- ・ SDGsや脱炭素化の視点が取組に組み込まれていることが素晴らしい。
- ・ 農業や工業といった分野を横断して意見交換が行われていることがよい。
- ・ 大学等の知見も活用し、生徒の皆さんの立場からも本道産業を盛り上げてほしい。